

# きたもと教育だより

—学校教育広報誌—



西中

心を一つにして歌った  
「校内音楽会」

南小

1年生との遊びを  
考えてくれました  
6年国語  
「みんなで楽しく過ごすために」



## 主な内容

- 教育長 『ロボットはそこにいる』 ————— 2
- 提言 『まず獣身を成して後に人心を養う』 ————— 3
- 教育実践 『チームとしての連携を生かした学校づくり』 南小— 4
- 教育最前線 『誰一人取り残されない学びの保障』 に向けて ——— 5
- 教育百景 ————— 6~7
- 特集 『食育の授業（1年生）』 南小 ————— 8
- 『北小まつり』 北小 ————— 8
- 『修学旅行（日光方面）』 石戸小 ————— 8
- 『北本市中学生キャリア・チャレンジ』 東中 ——— 8

第54号

令和6年3月18日

発行 北本市教育委員会

編集 きたもと教育だより編集委員会



## ロボットはそこにいる

北本市教育委員会教育長 神子 修一



漫画「鉄腕アトム」の連載は1952年に始まり、1968年に終了した。その間、アニメ化されテレビ放送され、絶大な人気を博した。私の世代はアトムとともに少年時代を過ごし、成長した。アトムから様々な科学的知識も得たし、未来の世界を思い描いた。遙か宇宙には、宇宙ステーションが建設され、そこで生活している人たちもいる。また未来都市では、言葉を理解し会話する人工知能(AI)が搭載された人型ロボットが人間とともに暮らしている。人間とロボットは仲の良い友人、隣人として描かれている。アトムが活躍する勧善懲悪のストーリーをハラハラドキドキしながら夢中になって読みながら、同時にそんな未来の世界を空想し、ワクワクしたものだ。アトムや鉄人28号などの空想上のロボットに刺激を受けた私たちの世代からは多くのロボット工学者が生まれた。

ロボットと言うと人型ロボットを想起するが、人型をしていないが人工知能を搭載されたロボットが工場などで働いていることはよく知られている。高速度で正確に機械を組み立てたり、溶接したり、不良品を瞬時に見分けたり、人間の能力を凌駕しているこれらの働くロボットに、我が子のように名前を付けているのは、日本人の対ロボットへのメンタリティを表していて微笑ましい。産業界ではすでにロボットはそこにいたのだ。これらのロボットに搭載されている人工知能は「判断AI」と呼ばれるが、「生成AI」が進化した今では、この種の人工知能はAIとは呼ばれてはいないそうだ。

現在、AIと呼ばれている「生成AI」は英語ではGenerate Artificial Intelligence。和訳された「生成」という言葉は「宇宙の生成」「万物の生成」などと使われるが、漠然としていて、意味を捉えにくい。IT業界では「生成AI」を次のように定義している。「与えられた条件などに基づいてデータやプログラムコードを自動的に生成するプログラム」。しかし「与えられた条件に基づいてデータやプログラムコードを生成する」ためには、基礎となる情報の蓄積が必要だ。多種多様な正確な情報量のインプットと蓄積されたその莫大な量の情報を処理する能力がコンピューターにあるかどうかAIの優劣を決定するのだ。したがって、インプットされた情報の量と質、内容によって

「生成される」「生み出される」ものは変化するので。間違った情報がインプットされれば、間違った「もの」を生成するし、偏った情報がインプットされていれば偏った「もの」を生成することになる。

それを証明するようなショッキングな事件が2021年12月25日英国で起きた。報道によると、ウィンザー城近くでボウガンを持った男が「女王を殺しに来た」と話し、身柄を拘束された。ここまでなら「通常」の犯罪事件なのだが、しかしこの事件は、犯人の供述により特殊なものとなった。それは共謀者がAIだったということだ。犯人はAIアプリを使ってAIアバターを作り「サライ」と名付け、音声や文字で頻繁に会話をしていた。そして犯人は「サライ」に女王殺害計画を相談し、「サライ」から意見や感想を聞き、計画を実行したのだ。犯人の作った「サライ」は「犯人が与えた条件などに基づいて、データやプログラムコードを自動的に生成」し、犯人にとって好ましい回答をし、結果的に犯行をそそのかすことになった。そして「サライ」は史上初めて、「犯罪者となったAI」として歴史に名を刻むことになったのだ。

様々な情報を取り込み、与えられた条件に従って、それらを整理・統合・処理して、アウトプットするという作業を、私たちは生まれてから休むことなく繰り返している。そしてさらに、私たちは五感を使い言葉には表せない様々な情報を取り込んで蓄積している。私たちは、言葉と表現方法を駆使して、他者との関係を紡いでいる。多様な人たちと交わることで、この紡ぐ力を磨いているのだ。コミュニケーション力を高めているのだ。この感性を使うことはAIには真似のできないことだと思う。

AIとの共生は一気に進み、確実にここまできてきている。すでに人間の作り上げたものとAIが作り上げたものの判別が困難になるケースが現出し、社会に混乱を生じ始めている。未来に向けてより良い社会を作っていくために、今を生きる私たちには、AIと人間の役割を明確にしておく責任とルール作りの責任がある。そして多様な感性や価値観を持った人たちと交わり、議論し、コミュニケーションし、人間にしかできない感性を磨いていかなければならない。もうロボットはそこにいるのだから。



# まず獣身を成して後に人心を養う

北本市立東小学校長 恵守 孝二

## 1 はじめに

標題は、福沢諭吉の自叙伝「福翁自伝」に書かれている初等教育の基本方針であり、「まずは健康な身体を作ること。勉強はそのあとでよい。」ということの意味している。今から120年以上前の教育者の言葉であるが、現代にも通じる教えであると強く感じる。今回、本稿執筆の機会をいただいたので、改めて初等教育における「獣身（健康な身体）を成すこと」の意義や重要性について考えてみたい。

## 2 たくましくない子供の現状と将来への影響

(1) 「雨ニモ負ケズ」のパロディ詩から

雨にもあてず 風にもあてず
雪にも 夏の暑さにもあてず
ぶよぶよの体に たくさん着こみ
意欲もなく 体力もなく
いつもぶつぶつ 不満をいつている
毎日塾に追われ テレビに吸いついて 遊ばず
朝から あくびをし 集会があれば 貧血をおこし
あらゆることを 自分のためだけ考えてかえりみず
作業はぐずぐず 注意散漫すぐにあきる そしてすぐ忘れ
りっぱな家の 自分の部屋にとじこもって
東に病人あれば 医者が悪いといい
西に疲れた母あれば 養老院に行けといい
南に死にそうな人あれば 寿命だといい
北にけんかや訴訟があれば ながめてかかわらず
日照りのときは 冷房をつけ
みんなに 勉強勉強といわれ
叱られもせず こわいものしらず
こんな現代っ子に だれがした

これは、現代の子供や子育てを風刺したパロディである（作者はどこの校長先生らしい）。かなり辛辣な内容であるが、部分的にあてはまる子（保護者）はどこにもいるのではないだろうか。

- (2) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果から
- ・昭和60年ごろから低下傾向が続き、令和4年度の結果が過去最低となった。
- ・運動する子としない子の二極化の傾向が顕著となっている。
- ・肥満傾向の子供の割合が増加している。

等が指摘されている。原因としては、

- ・子供の運動やスポーツを軽視する大人の意識
- ・地域におけるサンマ（運動する時間、空間、仲間）の減少が大きいと思われるが、近年は朝食欠食や睡眠不足、スクリーンタイム（テレビやスマホ、ゲーム機等による映像視聴時間）増加など、生活習慣の変化の他、新型コロナウイルスの影響による激しい運動の自粛なども要因と考えられている。

(3) 生徒指導上の問題から

「いじめ」や「不登校」、「学級崩壊」などの問題が深刻化している。さらに近年は、「ネット（ゲーム）依存」などの新たな課題が子供たちの健康面（身体や心）や人間関係（家族や社会）に悪影響を及ぼしている。

(4) 将来への影響

(2) (3) の状況が改善されないと、将来的に心身の健康に不安を抱える人々が増え、個人のみならず社会全体の活力が失われる事態が危惧される。

## 3 「獣身を成す」3要素の重要性

「獣身を成す」には、「栄養」「運動」「休養」の3要素が不可欠であり、それらのバランスを整えることが重要となる。また、様々な研究から

- ・朝食をしっかり食べる子の方が学力が高い。
  - ・運動をしている子の方が学力が高い。
  - ・約8～9時間睡眠する子の学力が最も高い。寝過ぎや寝不足は、脳や学習効果に悪影響を及ぼす。
- ことが明らかとなっている。さらに、運動・スポーツには、以下のような効果も期待されている。
- ・スポーツは、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協働する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである。（スポーツ基本法前文）
  - ・運動が、ストレス解消や意欲、集中力・判断力、記憶力、創造性の向上に有効である。

『運動脳』（サンマーク出版）

以上のことから、改めて「早寝、早起き、朝ごはん」と「運動・スポーツ」の重要性が理解できる。これらを習慣化させ、「獣身を成す」ことが、心の教育や「人心を養う（学力向上）」ことにも繋がっており、「生きる力」を育む近道になると考える。

## 4 おわりに

学校がコミュニティ・スクールとなり、ポストコロナ時代となった今こそ、学校・家庭・地域で「子供にとって本当に必要なこと」を見極め、連携・協働し、「まず獣身を成して」心身ともにたくましい子供を育てたい。そして豊かな心と確かな学力も身につけさせ、新しい時代を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人材に成長させたい。



## チームとしての連携を生かした学校づくり

### 北本市立南小学校

#### 1 はじめに

本校は、昨年度と比較するとクラス数が4学級、児童数が30名近く増加し、今後もさらに増えることが予測されます。

そこで、児童にとって笑顔があふれ、さらにより良い学習環境にするため、地域・保護者・学校の連携が必要であり、チーム一丸となって教育活動に取り組むことが求められています。

#### 2 保護者・地域との連携

新型コロナウイルス感染症が5類に移行となり、学校行事に多くの保護者が参加できる状態になりました。

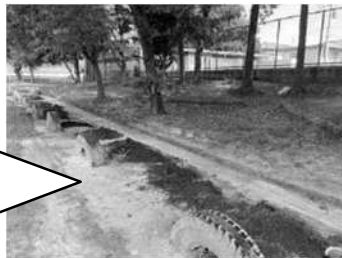
PTAと連携し、積極的な参加を求めるとともに、多くの保護者が行事において学校のサポートをしてくださいました。

4年ぶりに再開した夏季休業中の親子清掃では、校庭や校内の清掃を教職員と保護者が協力して行いました。特に、「おやじの会」を中心とした男性保護者は水はけの悪い箇所を整備してくださいました。



重機による作業で、短時間に終わることができました。

側溝の上に大量の土砂があり、水はけを悪くしていました。



#### 3 北本中との連携

「笑顔と優しさにあふれ、自ら学びに向かう児童生徒」を目指す児童生徒像と定め、西小、北本中と3校で掲げています。

特に、児童生徒の交流は活発に行っており、あいさつ運動や球技大会・体育大会の実技指導などで交流を図っています。

今年度は、学校公開日の午前に授業を公開し、午後は北本中学校の吹奏楽部とギター・マンドリン部

による「北本中コンサート」を開催しました。部員の中には、本校出身の生徒も多く、憧れの先輩として輝いていました。

吹奏楽部の演奏に合わせて、5・6年生と一緒にダンスを披露する場面もありました。



「こんな部活に入りたいな。」という感想も聞こえてきました。

リズムカルな音楽に合わせて、小中のコラボダンス！一体感が生まれました。



#### 4 子供同士のつながり

本校では縦割り活動という異学年交流を行っています。朝のふれあいタイムなどを通して仲良くなった1～6年生は、2学期の「みなみっこ集会」で一緒にお店屋さんごっこを行い、さらに親睦を深めました。



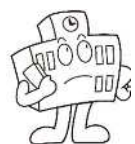
みんなで仲良くゲームやクイズを楽しんでいました。

#### 5 まとめ

規制緩和に伴い、PTAを中心とした保護者の理解と協力に感謝を感じた1年間でした。運動会後の片付けでは、雨天後の平日にかかわらずテントの撤収に多くの保護者が参加してくださいました。

また、中学校との交流や縦割り活動を通して、児童生徒に縦と横のつながりが広がりました。上級生にとっては責任感や自己有用感を高められる機会となりました。

今後も、子供たちの笑顔のためにチーム一丸となって連携を深めてまいります。



## 「誰一人取り残されない学びの保障」に向けて

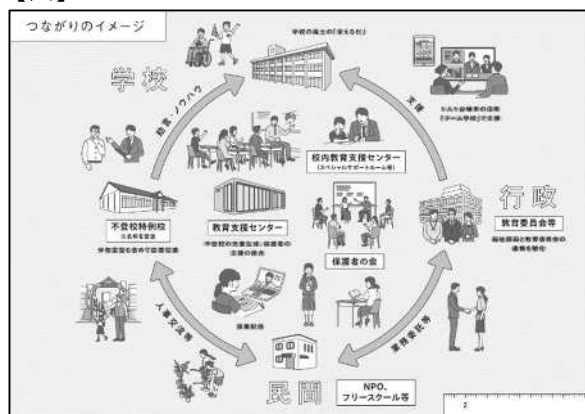
北本市教育委員会学校教育課 主幹兼指導主事 中村 駿

### 1 はじめに

現在文部科学省は、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」の下、教室に入りづらい子供達が、自分に合ったペースで学習・生活できる環境を整えるよう取組を推進しております。

そのため、各学校において、教員が子供達と向き合う時間を確保し、様々なつながりを大切にしながら、児童・生徒一人一人に対してきめ細かな指導や支援を行うことが必要となっています。

【図】



（「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」より一部抜粋 文部科学省 令和5年3月31日発表）

### 2 児童・生徒と向き合う時間の確保に向けた取組

本市では、児童・生徒達へのきめ細かな指導や支援を行う教員が時間を生み出すための取組の一例として、市内の学校にスクール・サポート・スタッフを配置し、教員に代わって資料作成や印刷業務、授業準備、掲示物の作成、配布物の仕分け、採点業務の補助等、様々な業務を行っていただき、教員が本来担うべき児童・生徒への直接的な指導や支援を行うための時間を生み出しております。

そうした取組をさらに推進するために、令和6年度からスクール・サポート・スタッフを市内全小・中学校に配置し、全ての学校において、児童・生徒へのきめ細やかな指導・支援の一層の充実を図ります。

### 3 児童・生徒への直接的な支援に向けた取組

一方、児童・生徒の個々のニーズに直接対応する環境として、本市では、中学校で学習支援室（ほっとルーム）やさわやか相談室を設置しています。小学校では教育相談室が設置されている学校もあります。

特に、学習支援室においては、教員免許状を持つ学習支援室講師を中心に、学級担任や教科担当教員による個別の学習支援や学習用タブレット端末を活用したオンラインでの授業参加を取り入れ、一人一人の学びを支援しております。小学校では、教育相談室や多目的室等で同様の対応をしております。

学習支援室は、令和5年度まで市内3中学校（北本中・東中・宮内中）に設置しておりましたが、その効果やニーズの高さから、令和6年度から、市内全4中学校に設置することとし、今まで以上に生徒に対するサポート体制を整えてまいります。

### 4 おわりに

教育委員会としては、スクール・サポート・スタッフの全小・中学校への配置を通じて、児童・生徒へのきめ細やかな指導・支援を行う教員の時間確保を目指した間接的な取組を行うとともに、個々のニーズに直接的に応じることのできる学習支援室の場所を確保することで、学習支援室講師や学級担任、教科担当教員等と連携して、子供達をより一層支援してまいります。また、引き続き、市教育センター（栄市民活動交流センター内）やさわやか相談室（各中学校内）等の関係機関との連携を図りながら、今後も、児童・生徒一人一人のニーズを把握し、きめ細かな指導や支援が行えるよう努めてまいります。

【写真】学習支援室（ほっとルーム）



# 教

# 育

# 百

# 景



## 運動会

9.30 (西小)

第50回目の運動会。天気にも恵まれ、子供達の笑顔が溢れていました。今年度は、応援合戦も復活し、6年生が考えた応援歌が校庭に響き渡りました。各学年の表現には工夫が見られ、子供達の一生懸命演技する姿に感動しました。



## 第74回体育祭

10.7 (北本中)

「飛翔～勝敗を超越した感動を求めて～」のスローガンのもと、生徒たちは心を一つに本気で競技に挑んでいました。3年生の出し物であるアトラクションでは、生徒自らダンスを考え、後輩たちのお手本となる演技を披露しました。



## 第16回運動教室

10.14 (北本体育センター)

埼玉武蔵ヒートベアーズの金子選手、辻選手を講師に招き、参加した児童は他校の児童や先生と触れ合いながら楽しく運動しました。「選手に声をかけてもらえて緊張したけど嬉しかった。」や「バッティングで遠くまで飛ばすことができた。」などの感想がありました。



## 祝30周年記念式典・イベント

10.21 (中丸東小学校)

記念式典では、地域の方も招き30周年のお祝いをしました。虹っ子イベントでは、午前中は子供達が縦割り班ごとに準備したゲームやクイズ、午後は教職員とPTAの食べ物店やイベントを楽しみました。実行委員の頑張りもあり、笑顔いっぱいの日になりました。



## 校内音楽会

10.25 (宮内中)

10月25日に北本市の文化センターにて音楽会を実施しました。コロナが5類になり、保護者の方を招いての久しぶりの音楽会です。それに加え文化センターでの初めての開催、生徒たちのやる気は十分です。体育館より広いホールに大きく美しい歌声を響かせました。



## 福祉講演会

10.25 (東中)

1年生の総合的な学習の時間の前期テーマは『福祉』です。学習のまとめとして、日本赤十字埼玉県支部より講師の先生をお招きしました。赤十字の活動のお話から、「福祉」について様々な角度から「今、自分に出来ることは何か。」を深く考えることができました。



**石戸小まつり 10.31 (石戸小)**

クラスで出店した12個のお店を、今年は縦割り班で回って楽しむことができました。どのお店も工夫を凝らしたものでした。6個のお店を回れた班もあり、児童は嬉しそうな様子でした。PTAからもハロウィンのプレゼントをいただき、とても楽しい1日になりました。



**KISEP まなびあい 11.7 (北本高校)**

この日、北高生約40名が中丸小に伺い、授業等のお手伝いをさせていただきました。教員や保育士志望の生徒もおり、とても貴重な体験をすることができました。中丸小の皆さんも楽しそうに高校生と交流しており、とても充実した1日になりました。



**大根の収穫 12.4 (北小)**

毎年、大根を種から育てています。間引きを経て、収穫をしました。大きく育った大根を抜くのは力が要り大変でしたが、友達同士で協力しながら頑張りました。収穫した大根は、家庭では煮物、給食では混ぜごはんやスープなどに調理され、おいしく食べました。



**きたもと幼稚園との交流会 12.11 (中丸小)**

来年度、小学校に入学する年長児童と1年生との交流会を行いました。歌やダンスを披露したり、生活科の学習で作成した木の実を使ったおもちゃで遊んだりしました。1年生は年長児童とともに楽しく遊び、1年生が手作りのペンダントを渡すと年長児童は喜んでくれました。



**沖縄修学旅行 12.8~11 (北本高校)**

2年生は、3泊4日の沖縄修学旅行に行ってきました。各自で羽田空港に向かうところからスタートし、平和祈念公園での平和学習、今帰仁村での民泊体験、マリンスポーツやビーチでバーベキュー、国際通り散策など、一生の思い出をたくさん作りました。



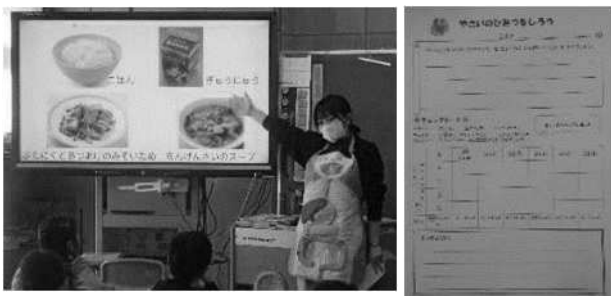
**あいさつ運動 12.13~21 (東小)**

東中学校区の「小中合同サミット」で決まった活動として、あいさつ運動を行いました。学年ごとに昇降に立ち、気持ちの良い「さようなら」というあいさつで、他の学年の下校を見送りました。明るく大きな声が響き渡り、笑顔がいっぱいの下校風景となりました。

## 特集 食育の授業（1年生）

～「やさいのひみつをしよう」～  
北本市立南小学校

子供達は、栄養士から「やさい」の栄養やその働きについて教わりました。紙芝居やエプロンシアターを使った学習は、子供達に分かりやすく、想像したよりも自分の「腸」が長いことに驚いたり、運動も大切なことを知ったりと、新たな発見をした時間となりました。家庭にも協力を得て、自分の食生活を振り返り、自分の体を大切にしていこうという気持ちが育ちました。毎日の給食の中で野菜を見つけるのも上手です。



## 特集 北小まつり

～異学年での交流～  
北本市立北小学校

令和5年11月8日（水）に、北小まつりを行いました。赤群、青群それぞれの班に分かれて、お店の計画から準備を進め、当日を迎えました。1年生から6年生までの縦割りで活動し、異学年交流で友達が増えました。

感想では、「ほかの学年と仲良くできた。」「来年は、お手本になれるようがんばります。」という声があり、充実した様子が見られました。

### ◆北小まつり 魚つりをしている様子



## 特集 修学旅行（日光方面）

～豊かな自然と貴重な歴史的遺産にふれる旅～  
北本市立石戸小学校

令和5年11月9日（木）、10日（金）に、修学旅行に行ってきました。日光東照宮では、ガイドさんのお話や建築物から、歴史的価値や徳川家の思い、人々の努力について深く学ぶことができました。湯滝や華厳の滝では、雄大な自然の美しさを感じ、普段感じるができない、北本市とは異なる魅力をもつ地域の素晴らしさを感じました。移動中やホテルでの集団生活も、日ごろの学校生活で身に付けた力をきちんと発揮し、ルールやマナーを守って過ごすことができました。6年間の集大成としてふさわしい態度で、学びの多い修学旅行となりました。



## 特集 北本市中学生 キャリア・チャレンジ

～「働く」を学んだ3日間～  
北本市立東中学校

令和5年12月6日から3日間の日程でキャリア・チャレンジを行いました。各事業所では、担当の方々に優しく丁寧に指導していただき、生き生きと活動に励む姿がありました。また、こっそり「どう？」と聞くと少々疲れた表情で「仕事って大変ですね…でも、楽しいです!」という言葉が返ってきました。わずか3日間でしたが、生徒たちにとって「働く」ということを体験できた貴重な3日間となりました。3日間の活動を終えた生徒の日記には、「また仕事がしたい!」や「大変だったけれど、楽しかった!」という感想とともに、お世話になった事業所の方々への感謝の言葉がたくさん綴られていました。そんな感想からも生徒一人一人にとって充実した3日間だったと感じることができました。

